

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092400054		
法人名	特定医療法人 宝山会		
事業所名(ユニット名)	グループホームこがうら		
所在地	和歌山県西牟婁郡白浜町2688番地		
自己評価作成日	令和2年12月15日	評価結果市町村受理日	令和3年5月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action=kouhvu_detail_022_kani=true&JigvnoCd=3092400054-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	令和3年1月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑に囲まれた閑静な住宅地にあり、施設で調理した温かい食事と一緒に作った手作りのお菓子を提供するなど、認知症の入居者様にとって家庭的な環境であり、安心して生活できる場所である。温泉による入浴、定期的に行う催し物を楽しまれるなど生き生きとした生活を送れるよう支援しています。又、白浜小南病院に併設された形をとっており連携体制が整っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は観光地から離れた閑静な住宅地にある。同敷地内に別館として活用している屋敷も、日本家屋の風情を醸し出し、四季折々の草花が鑑賞できる環境が成されている。新型コロナウイルス感染症流行以前は、観光名所をドライブしたり町内の祭りや行事にも参加するなど、住み慣れた地域で家族や知人らと交流を積極的に図っている。事業所内は、共有スペースから、台所での調理の様子が窺え、入居者と職員が会話を楽しみながら調理を行い五感を刺激できる環境が整っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を事業所内に掲示し、管理者と介護職員は利用者様が地域にとけこんで生活していけるよう支援を行っている。	笑顔、安心、個性、協同の四つのテーマを理念に掲げ、管理者や職員と共同して地域に根付いた事業所を目指し取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事に参加したり、当施設でひな祭りや菖蒲観覧会などを開催。地域の方々にも参加して頂き交流を深めているが、今年度はコロナ感染予防の為自粛している。	毎年夏祭りや秋祭りなどで家族間の交流会も行っていたが、今年度は、新型コロナウイルス感染予防のため自粛し、事業所内で職員と入居者が食事やおやつ作りを楽しんでいる写真を家族等に送付し、繋がりが途絶えないよう配慮している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度春以降、コロナ感染拡大予防の為外出支援と催し物を自粛しているため、地域との交流はほとんどない状況。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染拡大防止の為4月、6月、8月の運営推進会議は中止し、報告書のみ提出。10月は開催し施設の現状や取り組みを報告。介護保険係・地域包括支援センターからのご意見をいただきサービス向上に努めている。	運営推進会議は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、行政と検討し今年度は10月のみの開催となり、その際は、現状報告を行った。開催出来ない時でも、会議の委員の方々とは電話や書面で連携を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加や消防訓練の見学等、入居者様の状況を把握していただいている。又、分からないことがあれば連絡し、説明していただいています。	運営推進会議の開催時期や、事業所の空き状況を報告したり、予防接種や消防訓練の状況の確認を受けて報告するなど協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束適正化検討委員会や施設内研修を行い知識を深めている。やむを得ず拘束を行う場合には家族様に説明・確認をし、記録をする。その後カンファレンスを続け解除に向けた取り組みを行う。	3か月に1回委員会を開催し、管理者や職員間で身体拘束をしない取り組みについて検討している。やむを得ず拘束をする場合は、期間を定めて記録を残すとともに、拘束をしない方法を常に検討している。現在は身体拘束は行っていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等を通じて虐待が起こらないように職員の認識を高める。職員同士の会話や交流を大切にし、ストレスをためないように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修を行い、職員全体で理解を深めている。成年後見人制度を活用している入居者様がおられる為、職員全体で学ぶ機会を持ち認識を深めた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設内見学などにより、利用者様・家族様の疑問点をきちんと説明したうえで契約を行う。状態の悪化などによる解約の際も十分に説明、相談に応じる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様の面会時や電話にて状況を報告し、頂いた意見や要望を職員に伝え改善を行う。また、入居者様との会話から意見を頂き改善要望を反映している。	家族などが来所された場合は、検温やマスク着用など感染症予防対策を徹底したうえで面会してもらっている。面会時や電話連絡で意見をいただいた際は、都度検討を行い運営改善に役立てるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案をミーティングや個々にも受け入れ、運営に生かすようにしている。	月1回のミーティングや各担当者からの気づきや意見を報告書で受け取り、ケアマネジャーが集約のうえ、運営に活かせるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有休やリフレッシュ休暇体制が活かされており、職員のスキルアップのための協力体制がある。資格取得後の手当等を設け、職員のやる気向上心を持ちながら働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は職員全員で参加している。外部研修においても職員がえた知識は職員全体で共有し合えるようにしている。(外部研修は現在コロナウイルス感染拡大防止の為自粛している)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣病院の地域ケア室を訪れ、施設の説明をし、認識の向上に努め紹介を得ている。又外部研修などに参加し交流の機会を持てるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の状況は紹介者様や家族様からの聞き取りや本人様との面接等において把握する。施設に早くなじめるように担当者を決めて関わりを大切に、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様に安心して頂けるように要望や心配事などに耳を傾け、精神的な負担を取り除き本人との良い関係が続けられるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時には本人様と家族様が必要としているサービスと、施設として必要と感ぜられるサービスを提供し支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様にはできる範囲で洗濯などの作業を職員とともに行ってもらい、日常会話も頻繁に行い生活を共にするという信頼関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活の中で家族様の会話をするなど、家族様の存在を感じて頂けるように配慮する。又来所の際はゆっくりと過ごしてもらえよう努めている。体調の変化や受診後は報告を行う。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染予防の為、できる範囲で自宅で家族様と過ごす時間が持てるように支援している。	現在、家族から要望があった方については、一時帰宅いただき、できる範囲で家族と過ごしていただいている。コロナウイルス感染症予防のため、馴染みの人や場所との関係性を保つ働きかけは出来ていないが、買い物などにより、車で出掛けた際は、通り道や風景を楽しむなど外部との接触を図る工夫をしている。	感染症予防の観点から、馴染みの人や場所での交流はできないが、ドライブや電話などで関係が途切れない取り組みを期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	少人数の施設なので、全員が顔なじみで家族のような関係を保っている。入居者様同士が言葉をかけ合えるような雰囲気づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了し、その後近隣の病院に入院された時は定期的に面会し励ましの声を掛ける等できる範囲で支援を行っている。又自宅で不要になった物を施設に寄付してくれる関係を築けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様や家族様の聞き取りから得られた生活歴や思い、希望の中から本人にとって何が良いのか職員全員で考え把握に努めている。	家族からの要望と入居者の状態に差異がある場合は、職員間で検討を重ね、最善の方法を持ち寄って家族に説明し理解を得よう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	主に家族様から今までの暮らしの情報収集をし、本人様からは折に触れ会話の中から情報を引き出し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ここの残存能力を把握し、できる限りその能力を保ち生かせる事を楽しみとし、一人ひとりに合った過ごし方ができるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のミーティングと各担当者からの介護報告書により職員全員で入居者様の状態を把握し、本人様・家族様の要望等により意見を反映した介護計画書を作成している。	入居者の状況は、各担当者より毎月報告書を受け取るとともに、入居者や家族からも要望を聞き取ったうえで、月1回ミーティングにおいて職員全員で把握し個別計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の日々の個別記録を当日関わりのあった職員が記入し、職員間で情報の共有により計画作成の見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生じる本人様や家族様の要望に柔軟に対応し、臨機応変な支援ができるように努めている。(個別の買い物支援・受診付き添い等)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催しや行事に参加させてもらい交流を深めている。当施設の催しにも参加してもらって楽しいひと時を過ごせるように支援している。(現在コロナ感染予防の為自粛中)又地域の美容室などおなじみを作っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には連携の病院を受診して主治医もお願いしているが、以前からのかかりつけ医や希望の医療機関も職員付き添いのもと受診している。	入所前のかかりつけ医の診察を受けられるよう職員が付き添って対応している。眼科や皮膚科など専門医療機関に家族が付き添うこともある。訪問歯科も受け入れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1程度で訪問看護があり、入居者様の健康状態の把握や相談に乗ってもらっている。又気になる事があれば連携している医療機関の看護部長に報告し、指示を仰ぐこともある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携の医療機関とは日頃から交流があり、情報交換や入退院もスムーズである。又他の医療機関に入院の際もこまめに面会し情報の把握の努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期には病院との連携があるので、本人様・家族様、職員も受け入れ先がある安心感がある。その際には十分に説明話し合いを行い支援を行っている。	入所前に、重度化や終末期についての対応や緊急時にも併設の病院がすぐ近くにあること等について理解をいただき対応している。ターミナル期の対応は事業所ではしていないが、出来る限り安寧な生活を送れるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には、急変時のマニュアルがあり、それに基づいて連携の医療機関への連絡や救急車の要請の連絡を行い初期対応に依っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練の実施と、地震水害等を想定した避難訓練も定期的に行い、全職員が対応できるように努めている。	毎年3月と11月に、消防署の指導のもと避難訓練を実施している。津波を想定した避難訓練では、近くの山まで避難するよう訓練している。	津波を想定した避難場所は私有地であるため、事業所側からも協力を得られるよう事前に関係を構築することを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりの性格を把握し、それぞれの人格を尊重しプライバシーを損ねることなく接するようにしている。	入居者一人ひとりの個性や人格を尊重しつつ、大きな家族として接するよう心掛けている。併設の病院から異動してきた職員にも、伝達を速やかに行い、利用者をいち早く把握できるよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話などで要望等を読み取り、自己決定ができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様主体で一人ひとりの個性に合わせた暮らしができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の好みに応じて身だしなみができるように支援している。地域の美容室に通い希望の髪型にされている入居者様もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の献立や行事ごとの献立を考え、一緒に作ったり、準備や食後の片付けなど手伝ってもらっている。	入居者には、調理時の味見やお盆を拭くなど作業に参加いただいている。職員も、和食・洋食・オヤツ作りを共に行いながら、入居者の五感を刺激しつつ笑顔で過ごせるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスのとれた献立を考え、常に摂取量を把握し、食事や水分摂取量の減少には経腸成分栄養剤や好みの献立に変更するなどして対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、声掛けを行い一人で困難な方は洗面所まで同行し見守りや介助を行う。義歯使用者は夜間帯に義歯の洗浄剤を使用し清潔を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導にてスムーズに排泄ができるように努めている。又排泄チェック表も有効に活用している。	入居者ごとの排泄パターンを把握し、トイレへの促しを行っている。排便困難な入居者には、腹部マッサージや冷たい牛乳など適した方法で下剤に頼らない自然な排泄になるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の方には、水分補給や腹部マッサージを取り入れ便秘予防に取り組んでいる。また、内服薬時には使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	温泉での個浴を一人ひとり入れ替えて温度にも気を配りながらゆったりと入浴してもらっています。できる限り入居者様の希望にそって入浴できるように努めている。	入居者が拒否される場合は、無理強いをせずタイミングを図りながら、まずは足浴から始めるなど、本人に入浴を受け入れてもらうよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの生活リズムや体調を尊重しながら、日中はリフレッシュや作業を行い、多少の休息も取り夜間に十分休めるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者様の薬について把握し変更があった場合も周知して管理している。又内服後の体調の変化や、ポリファーマシーにも常に気を配っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	特技や趣味を生かし、役割や楽しみを感じられるように支援することで、張り合いのある生活を送れるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	入居者様の希望に沿って散歩したり、個人での外出は支援できる範囲で行っていますが、現在はコロナ感染予防の為催し物の参加も含めて自粛している。	事業所は、少し足を伸ばせば観光名所が沢山あり、数十メートル先には海や山もある自然豊かな環境である。散歩や催事にも例年であれば参加しているが、今年度はコロナウイルス感染症の影響に伴い自粛している。感染が収束すれば外出を行う予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前は介護レベルが低い方も多く個々に買い物支援を行っていましたが、コロナ感染拡大や利用者様の介護度も上がり買い物などでお金を使うことが難しくなっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要な場合は事務所の電話を利用している。可能な方は年賀状を家族様宛に制作しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間は清潔に保ち、穏やかに過ごせるよう環境に配慮している。季節が感じられ落ち着いた過ごせる空間になるように心掛けている。	フロアや台所などの共用部分と居室部分の空間が保たれており、入居者一人ひとりのプライバシーも守りながら居心地の良い環境を整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓の座席は固定し落ち着いた食事ができるように配慮している。居室では自由に過ごせる反面、共用の空間では賑やかに会話や作業ができるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたものを持ち込み、安全に配慮した居室で落ち着いて過ごしていただけのように心掛けている。家族様の写真やお気に入りの物を飾られている方もいる。	入居者の使い慣れた家具等を配置するとともに、家族の写真や思い出の物を飾るなど、入居者が居心地よく落ち着いて過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来る事を理解して、できる事は積極的にして頂けるように、安全でその人に合った支援を行っている。		